

事実を十分認識すべきである。

また、エネルギー面からみれば、現在はそのわずか1/1000しか利用しておらず、大半のエネルギーはむだにしているか、あるいは逆に破壊力として働き、われわれは害を受けているわけである。実際上、このエネルギーのどの程度が利用できるかわからないが、少くとも現在の5倍や10倍に増大させることは可能であろう。

なお、ここでは九州山口県という広い地域を対象とし、概括的に述べたので、局地的にみれば当てはまらない点

もあろう。次の機会には各河川の流域別に、各季節について詳しく調査したいと思っている。

参 考 文 献

- 1) 福岡管区気象台 (1956) 発電河川としての筑後川水文調査 42~46.
- 2) 水利科学研究所 (1962) 水利科学 (地人書館) 150~152.
- 3) 丸善 (1967) 理科年表 地 47.
- 4) 小学館 (1965) 原色国民百科事典 5巻 76.

第15期 第5回常任理事会議事録

日 時 昭和43年12月9日 15.00~19.00

場 所 気象庁海洋気象部会議室

出席者 山本理事長、大田、竹内、朝倉、根本、岸保、小平、大井、神山、北川、各常任理事

報 告

庶務：1. 11月26日 文部省大学学術局長から科研費補助金（研究成果刊行費）の交付決定通知がきた。

2. 日本学術会議第8期会員選挙の結果学会推薦の神山恵三、三宅泰雄両会員が当選した。なお、山本義一会員も東北地区で当選した。

地物研連学会連合：1. 前回の常任委員会で Journal of geophysics に集認のアブストラクトを載せることの了解を得たが、同誌の出版は中止になるらしい。

2. 地物研連委員76名を45名に削減する案に対する反対意見を2、3日中に提出する。

天気：木原研三氏の英語講座が終了したので先般のアンケートの結果を考慮し入門講座（一般気象学）を載せるたにしたい。

国際交流：12月6日朝鮮大学校を見学し、委員会を開いた。

大井理事：シェルハーグ博士招待実行委員会を2回開き、招待のための予備的打合せの手紙を同氏に発送した。

議 題

議決事項

1. 気象集誌投稿論文の英文添削について
気象集誌編集委員会から提出された原案が一部字句を修正して承認された。

2. 名誉会員推薦基準について

名誉会員は定款に定めてあるように、日本気象学会に

対しとくに功勞のあった者を推薦する。

定数は若干名とする。

3. 評議員会、理事合同会議々題について

(1) 気象庁職員の学会出席等の学会活動について

(2) 気象庁職員の学会機関誌別刷購入について

(3) 賛助会員の獲得について

(4) 気象学会に対する御意見、御要望について

(5) その他

なお、本会議は評議員理事合同懇談会とする。

合同懇談会の前に評議員会を開く。

議題は、名誉会員候補者の推薦について、その他とする。

4. 春季大会について

5. 賛助会員勧誘について

賛助会員候補者名簿（案）に基き、必要に応じて追加修正して活動を開始する。

6. その他

(1) 科研費補助金審査委員候補者推薦について

磯野謙治、小倉義光会員を推薦する。その後の取扱いについては岸保理事に一任する。

(2) 国際会議の情報を天気に掲載することについて
会員から要望があるので、具体策について岸保理事と打合わせる。

(3) 第4回国際大気電気会議の会計報告を天気に掲載するたについて
会計理事の担当とし、簡明に載せる。

承認事項

森川達夫他15名および賛助会員海上電気株式会社の入会を承認する。